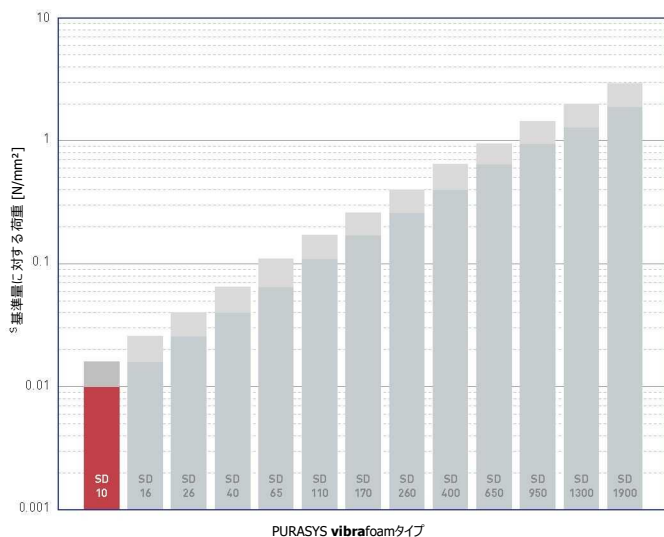


PURASYS **vibrafoam**シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.010

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.016

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

0.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 赤

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

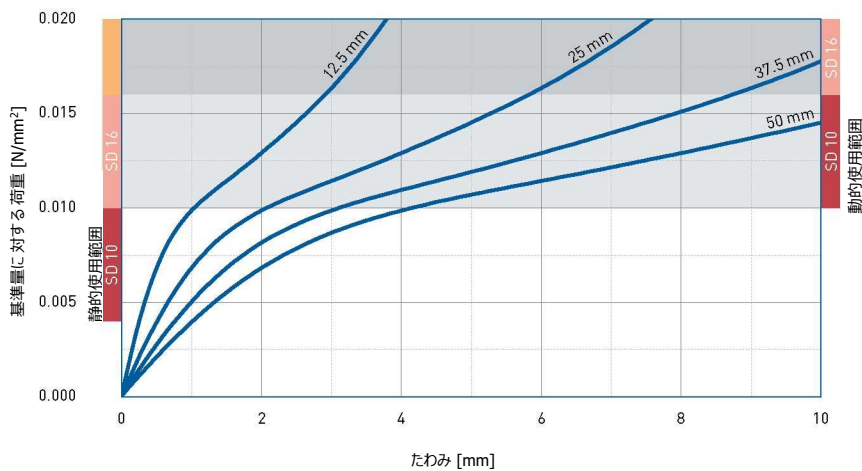
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.25	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.048 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	0.144 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.04 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.01 N/mm²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.09 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.01 N/mm²、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.011 N/mm²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	0.35 N/mm²超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	0.6 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹² Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.05 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

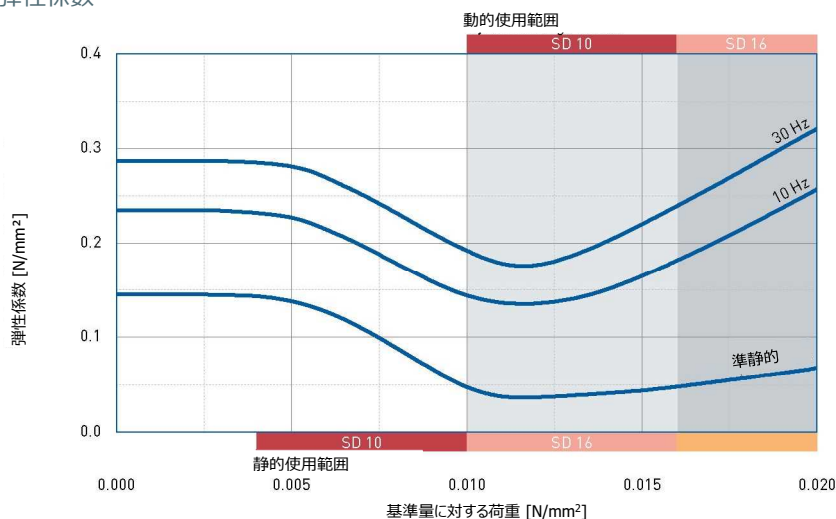
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

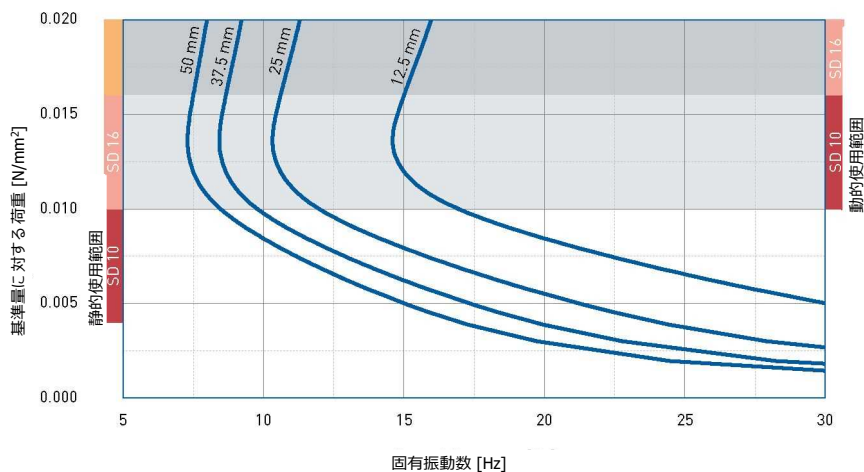
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数

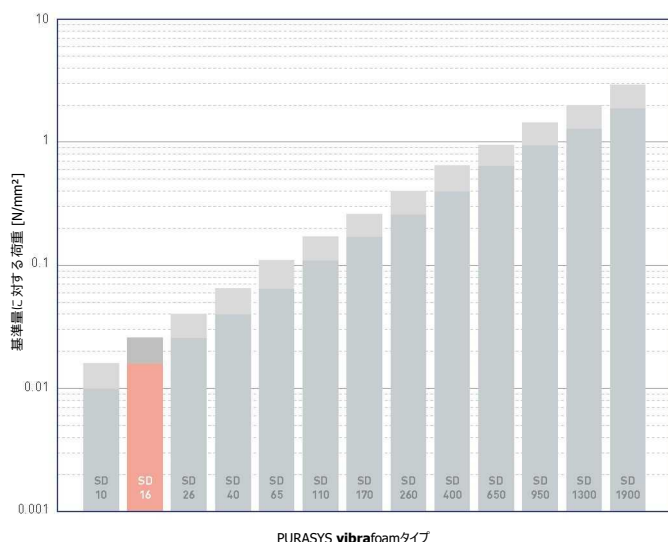


固い路盤上において固定質量とPURASYS **vibrafoam**のSD10による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam**シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.016

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.026

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

0.7

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 ピンク

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

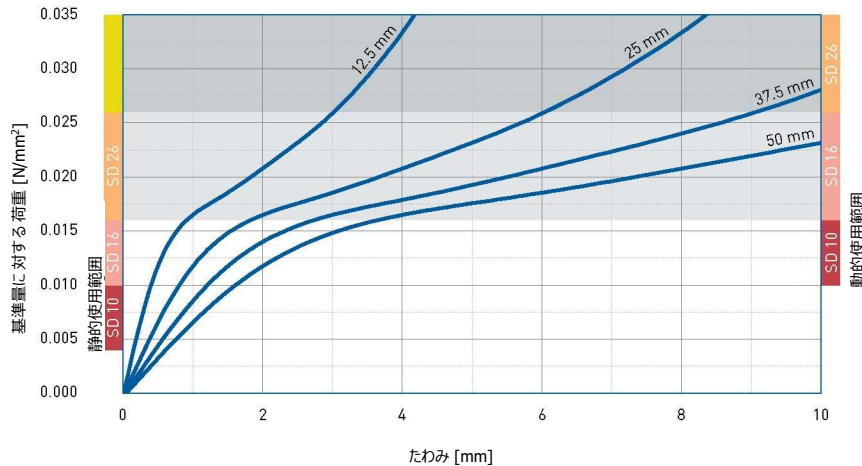
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.24	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.111 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	0.328 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.07 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.016 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.14 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.016 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.018 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	0.40 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	0.7 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹² Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.05 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

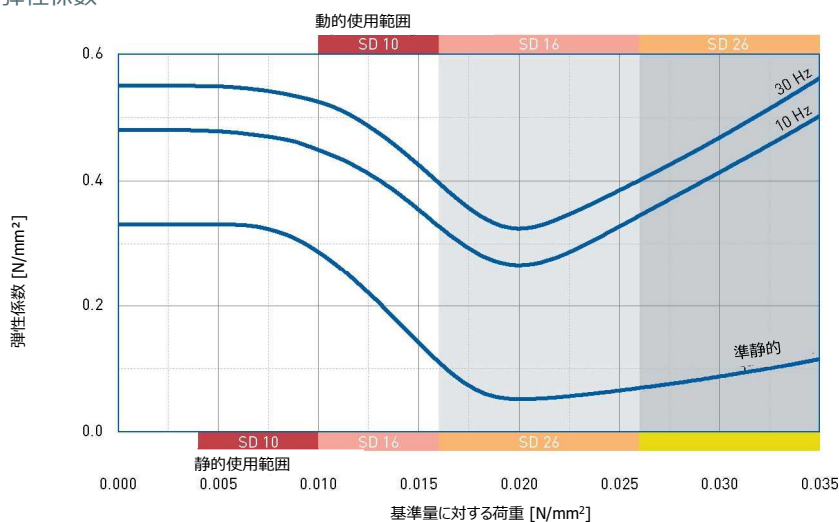
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において鋼板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

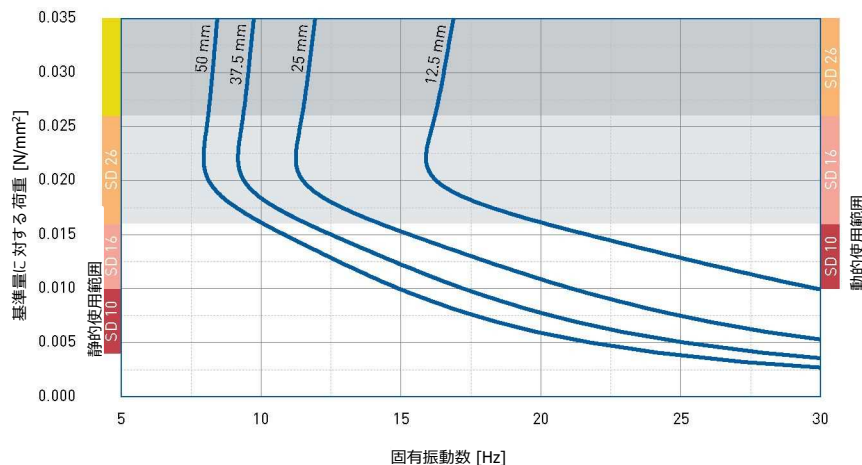
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数



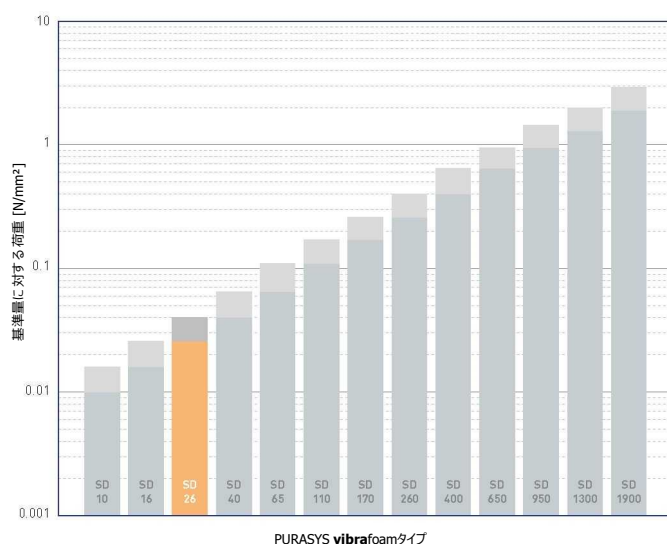
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD16による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.026

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.040

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

1.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 橙

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

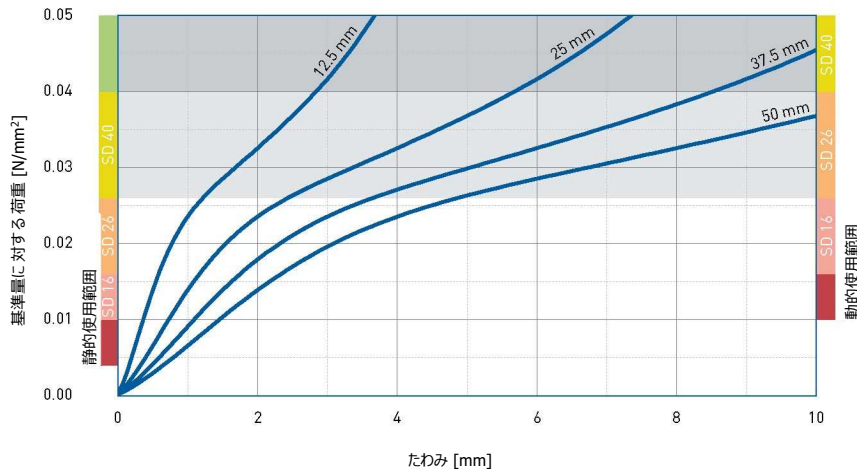
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.22	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.129 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	0.443 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.09 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.026 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.17 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.026 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.026 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	0.45 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	0.9 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.06 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

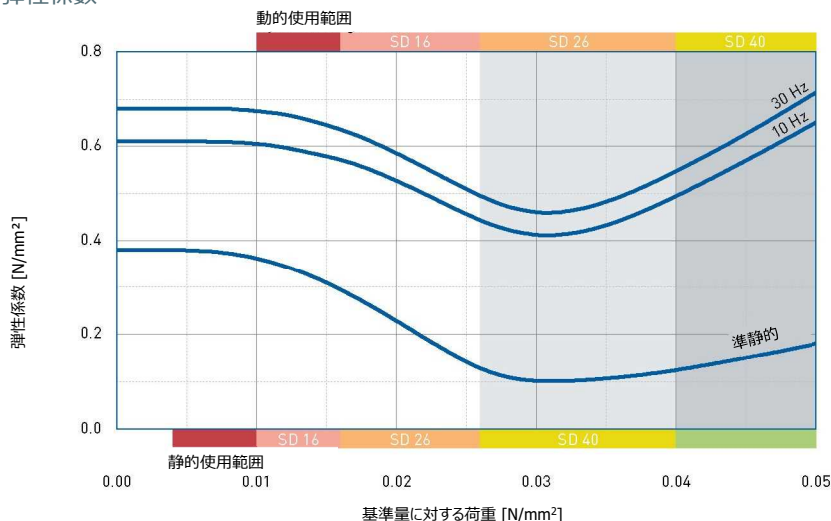
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

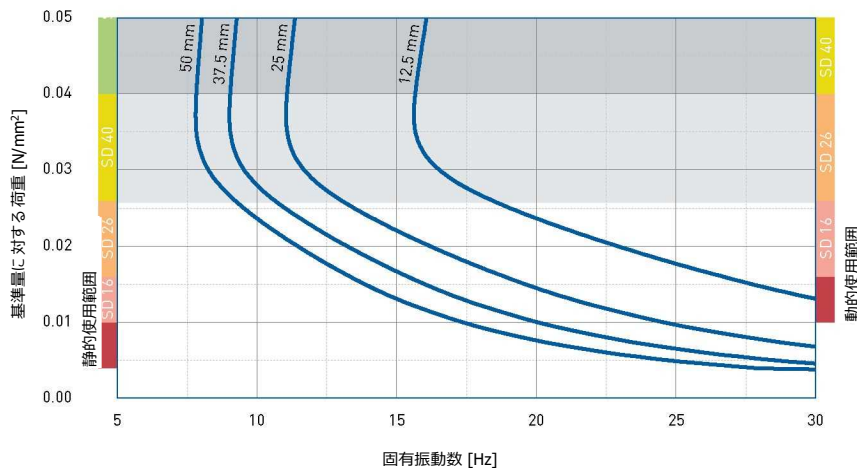
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数



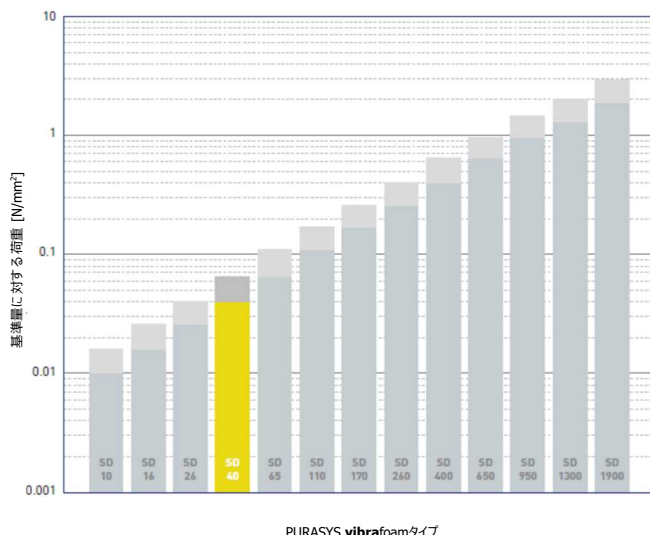
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD26による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam**シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.040

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.065

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

2.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 黄色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.15	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.316 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	0.743 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.13 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.04 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.24 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.04 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.046 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	0.55 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	1.1 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.07 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

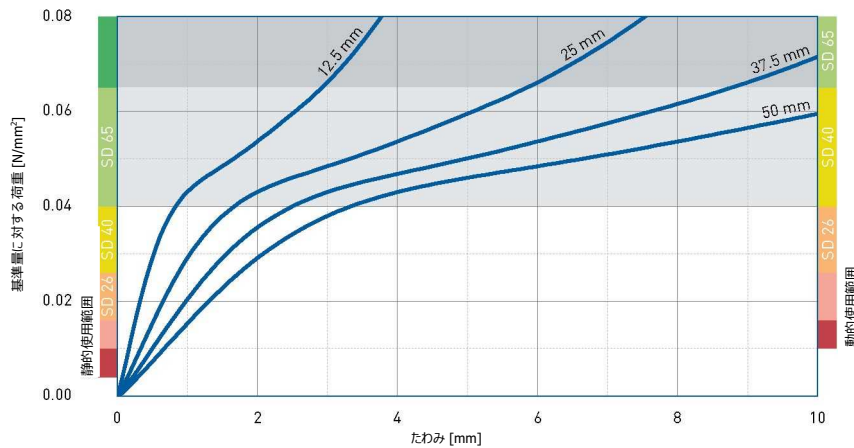
⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。

当社はデータを修正する権利を有します。

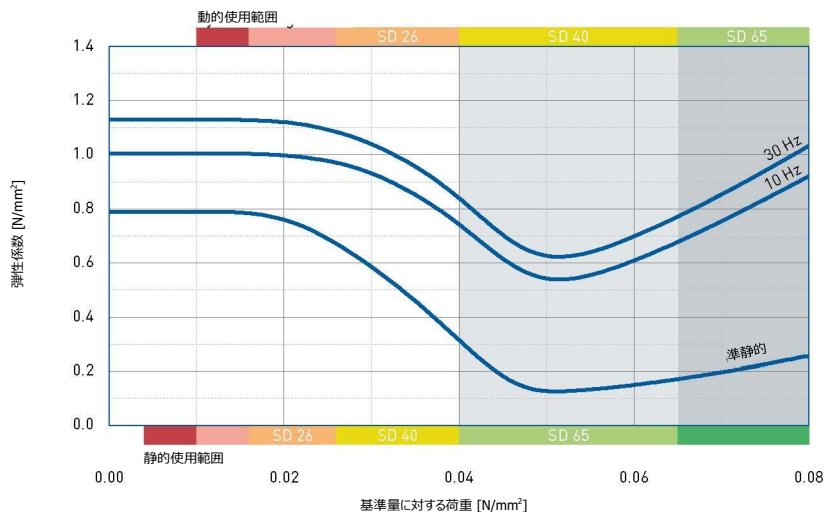
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

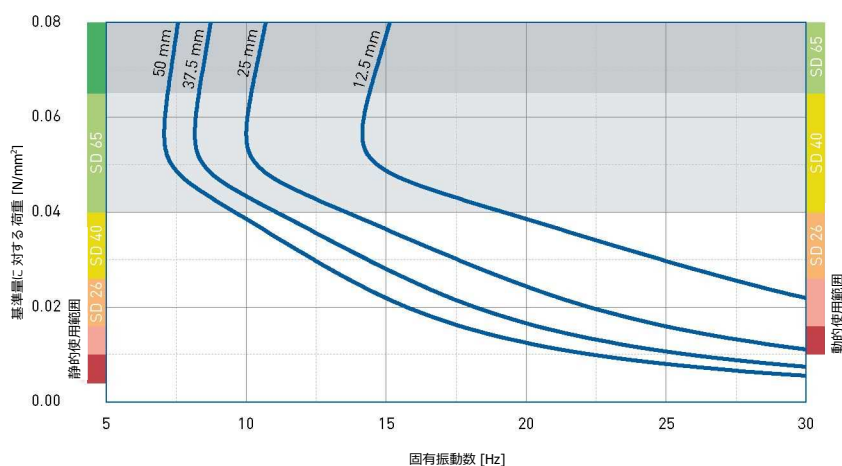
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数



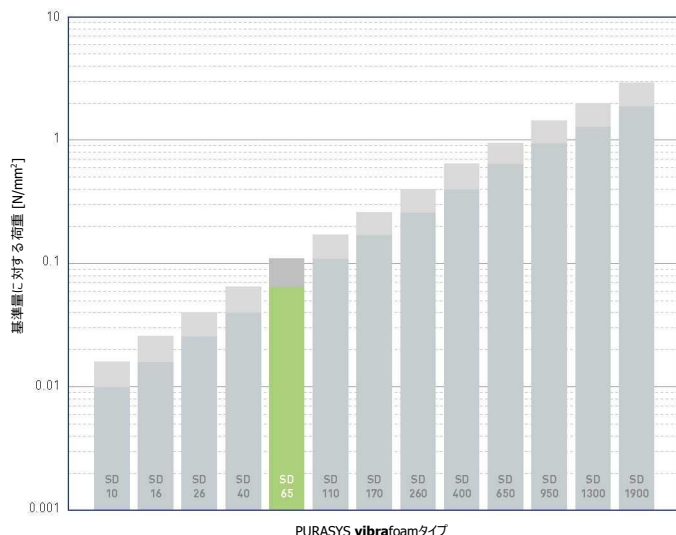
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD40による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam** シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.065

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.110

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

2.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 若草色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.18	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.453 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	1.06 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.17 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.065 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.33 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.065 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.073 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	0.70 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	1.3 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.07 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

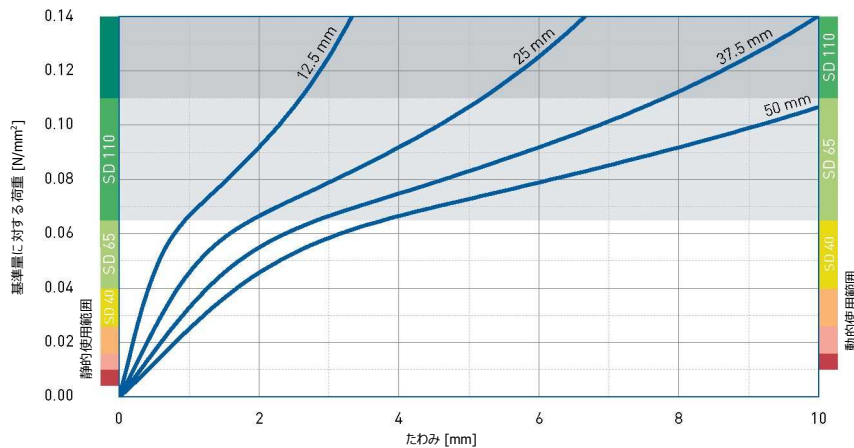
⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。

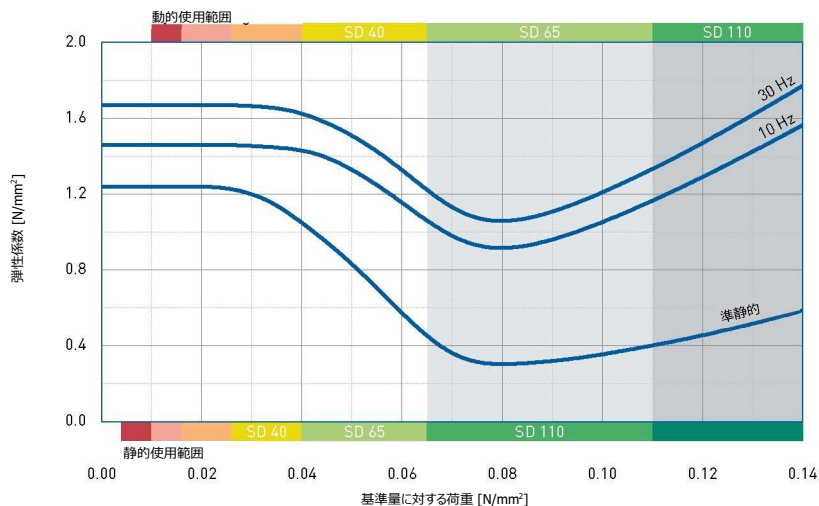
当社はデータを修正する権利を有します。

荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。
フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

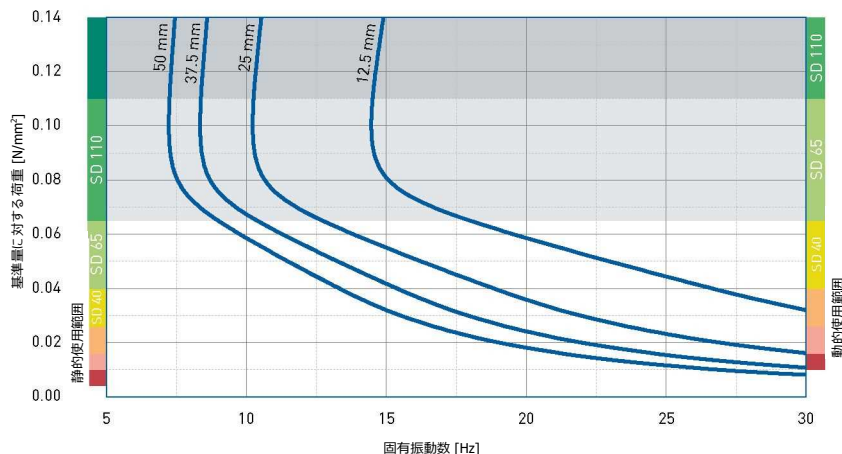
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数



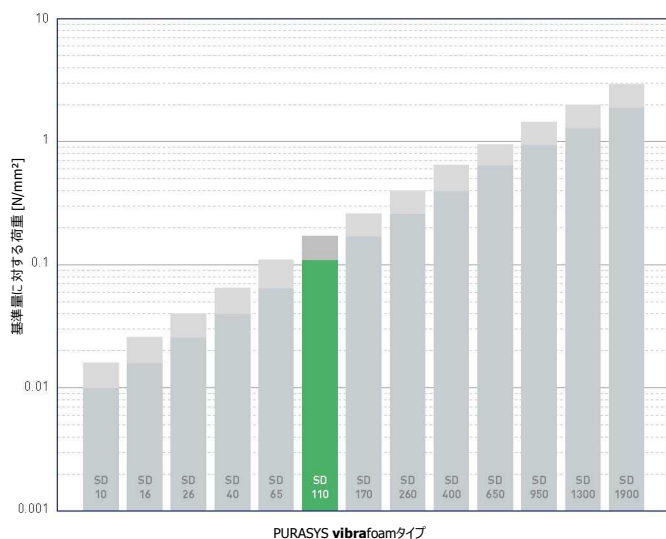
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD65による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam**シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.110

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.170

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

3.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 緑

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

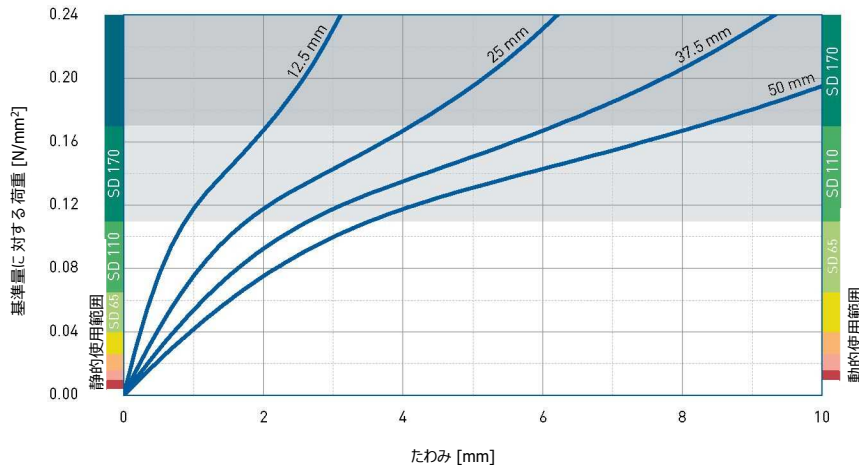
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.12	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.861 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	1.86 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.21 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.11 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.49 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.11 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.130 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	0.95 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	1.9 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.08 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

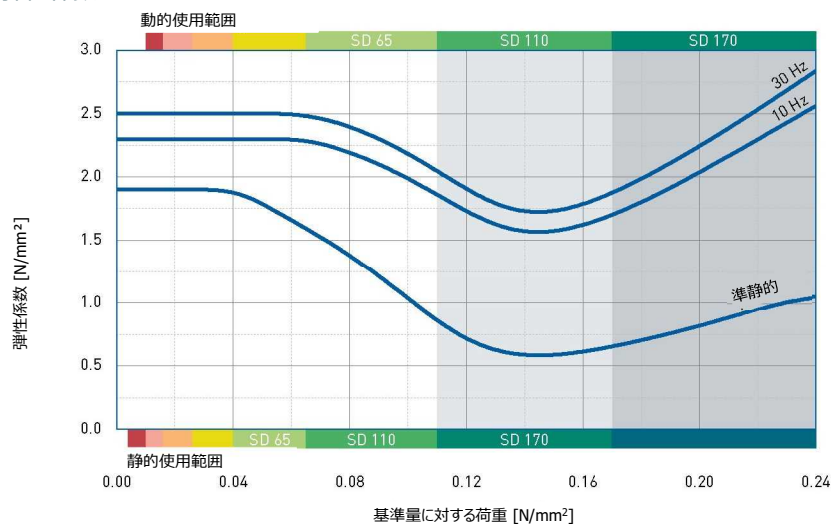
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

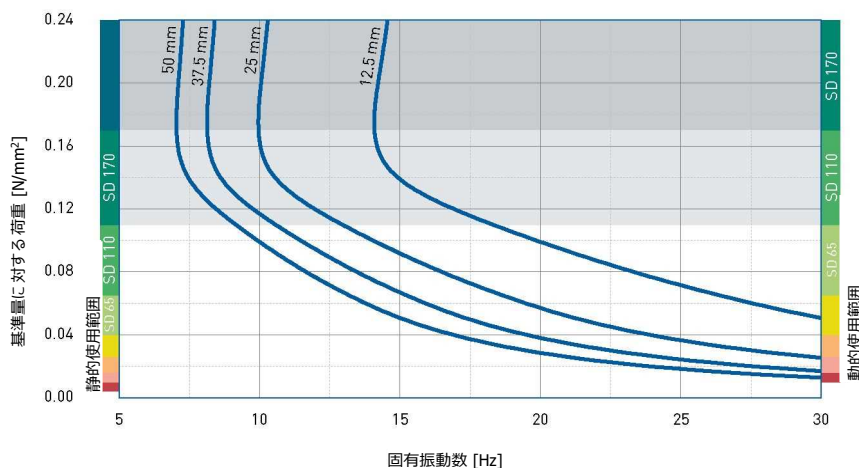
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数



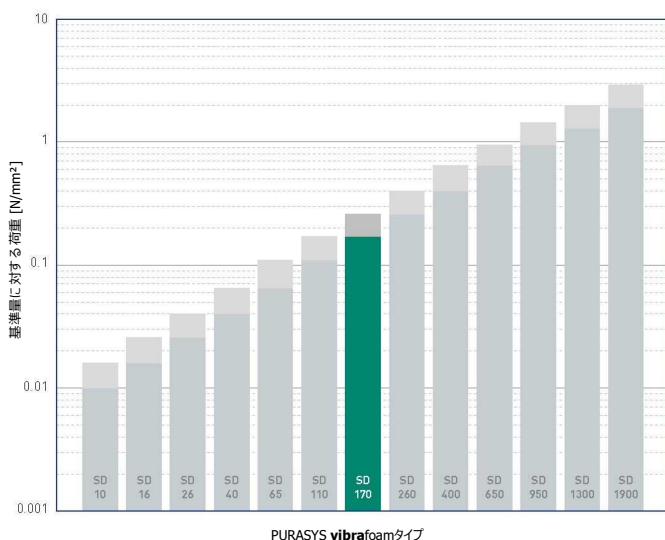
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD110による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam**シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.170

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.260

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

3.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 濃緑

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅1.0 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

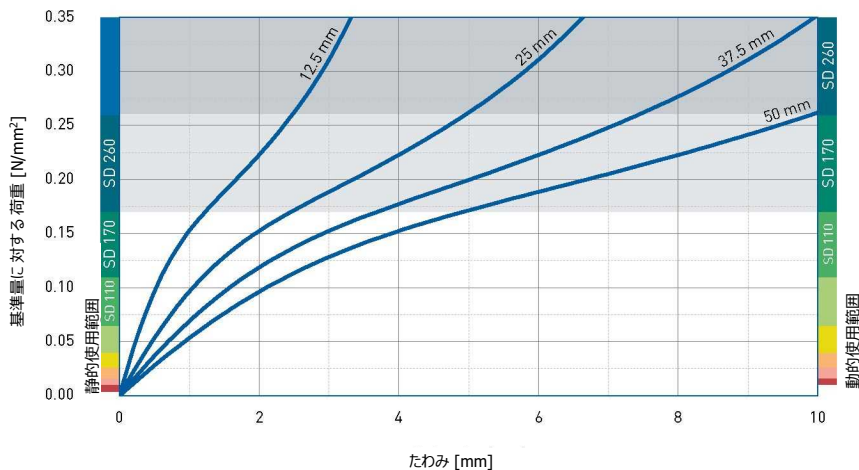
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.13	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	0.931 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	2.27 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.29 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.17 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.73 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.17 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.170 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	1.25 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	2.5 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	50%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω·cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.08 W/[m·K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

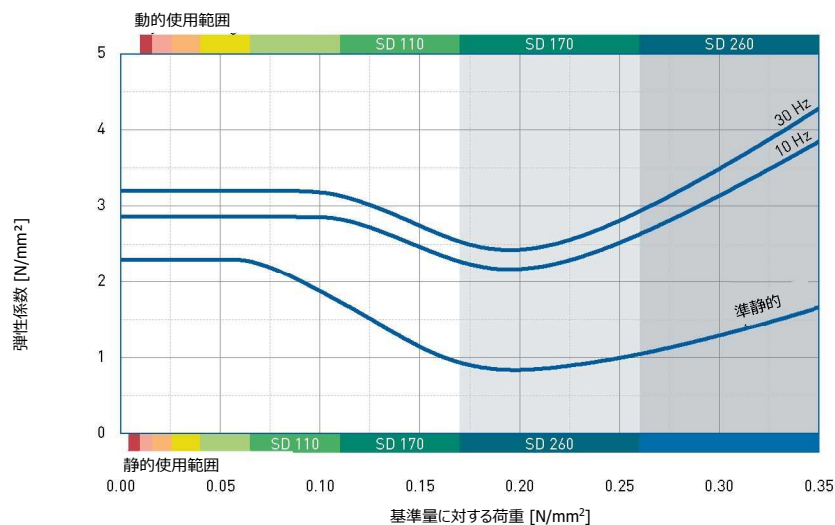
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

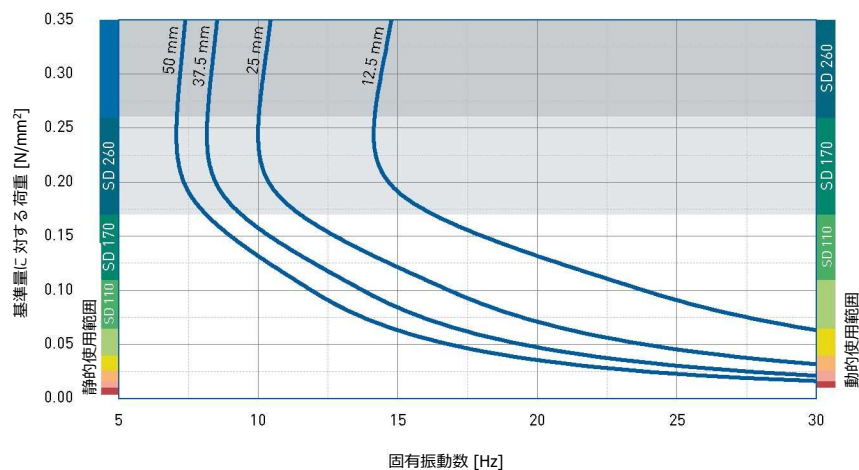
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数



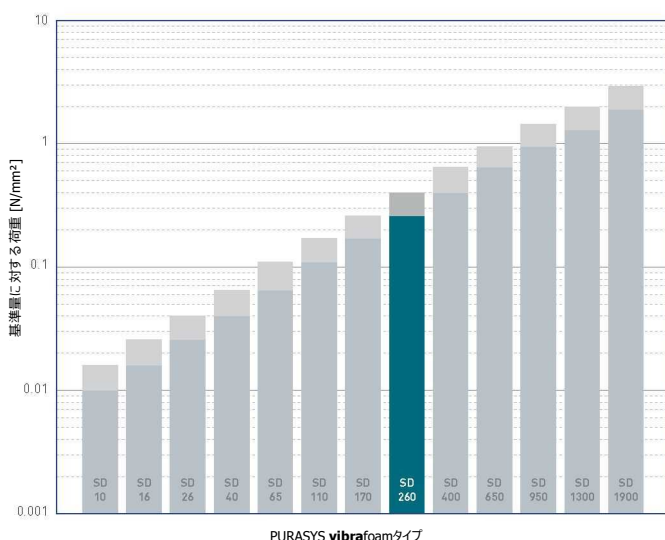
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD170による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam**シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.260

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.400

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

4.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 ペットロール

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

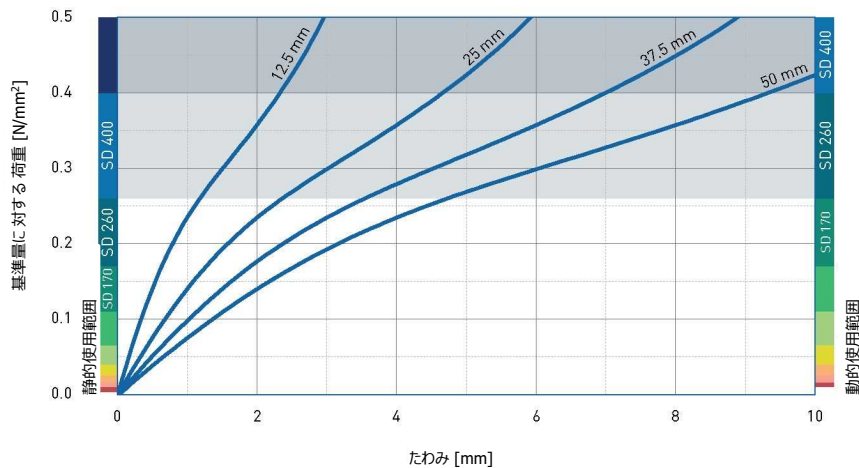
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.11	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	1.64 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	3.63 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.41 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.26 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.00 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.26 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.270 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	1.65 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	2.9 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	45%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.08 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

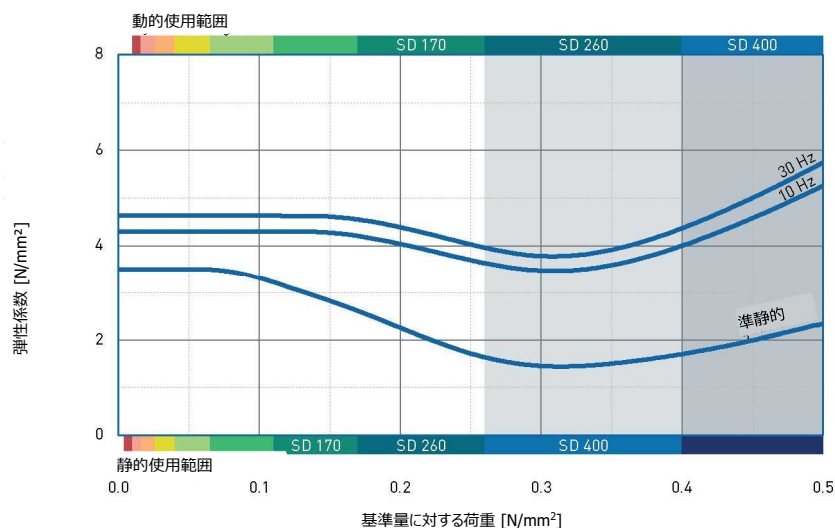
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=3$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

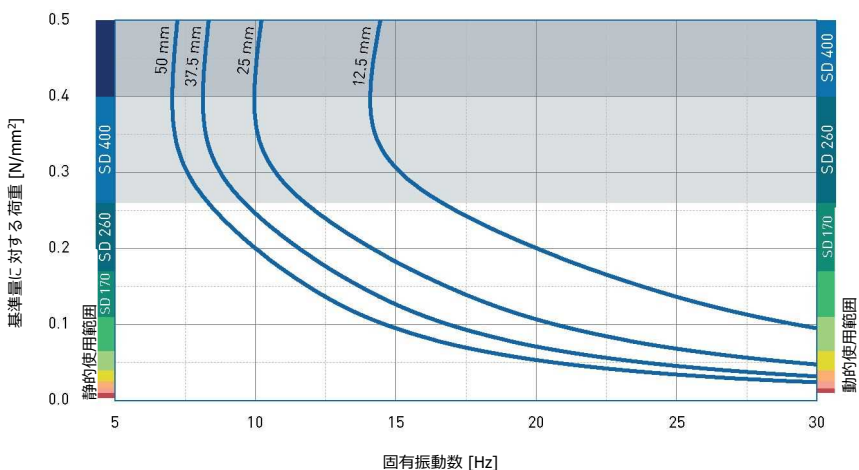
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=3$

固有振動数

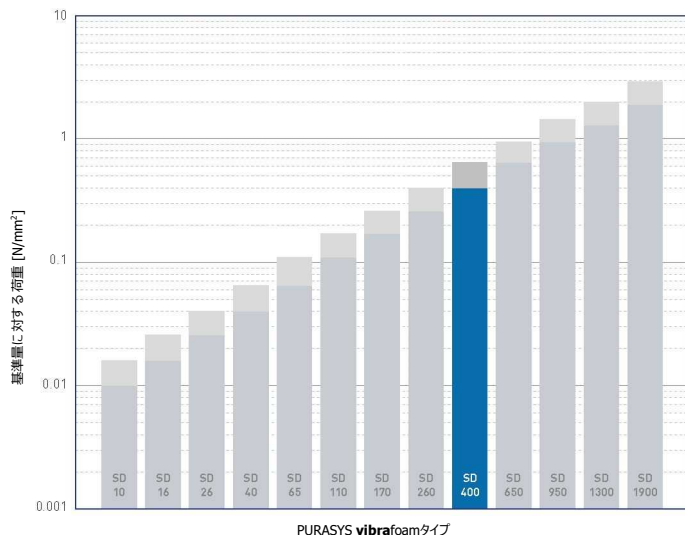


固い路盤上において固定質量とPURASYS
vibrafoamのSD260による弾性支承とによって構成
された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=3$

PURASYS **vibrafoam** シリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.400

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.650

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

4.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 青色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.10	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	2.72 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	5.27 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.53 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.40 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.15 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.40 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.370 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	2.25 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	3.2 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	45%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω·cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.10 W/[m·K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

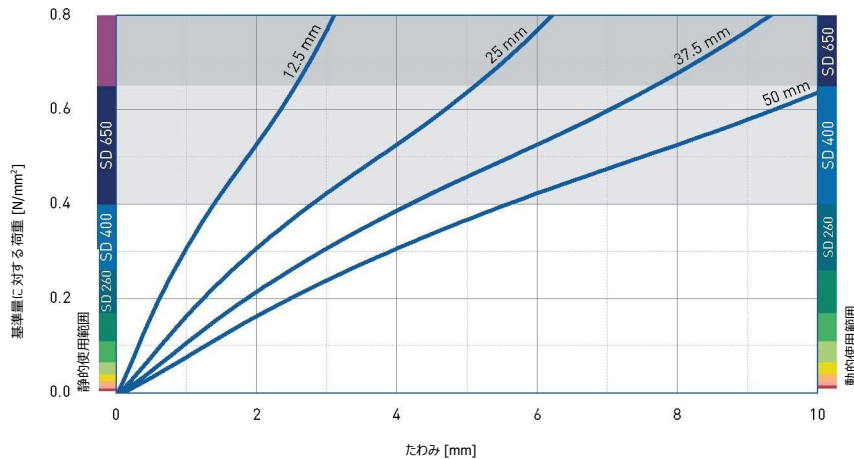
⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。

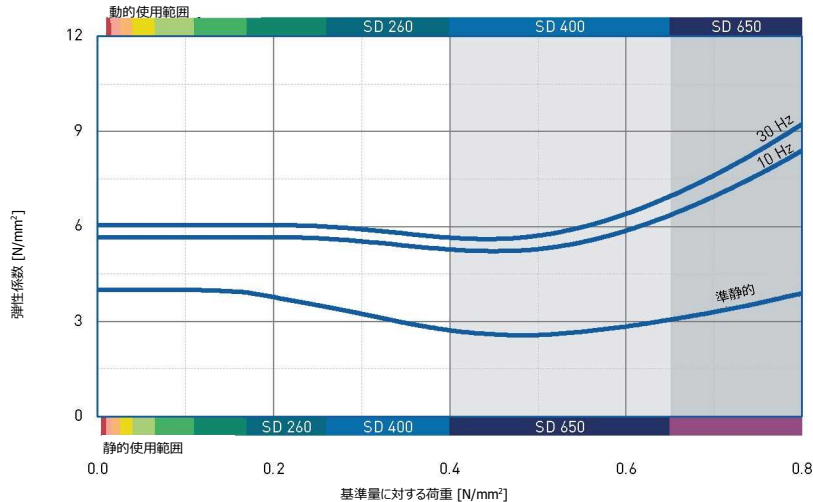
当社はデータを修正する権利を有します。

荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。
フォームファクタ $q=3$

弾性係数

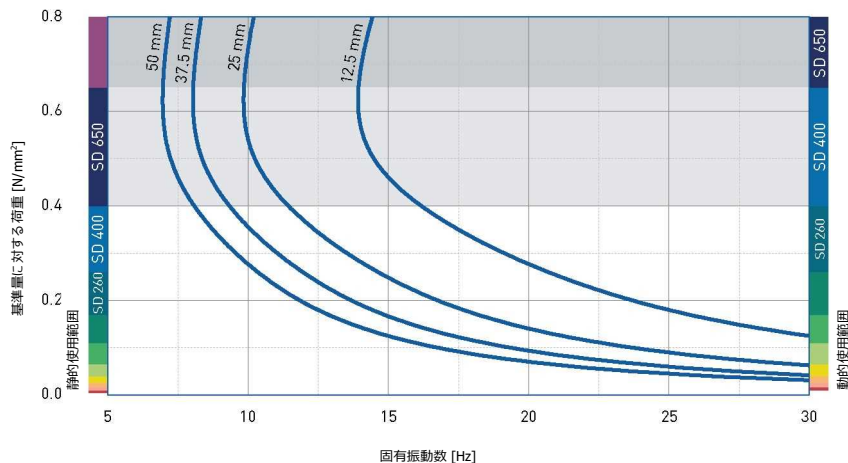


動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

準静的弾性係数：
荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験
フォームファクタ $q=3$

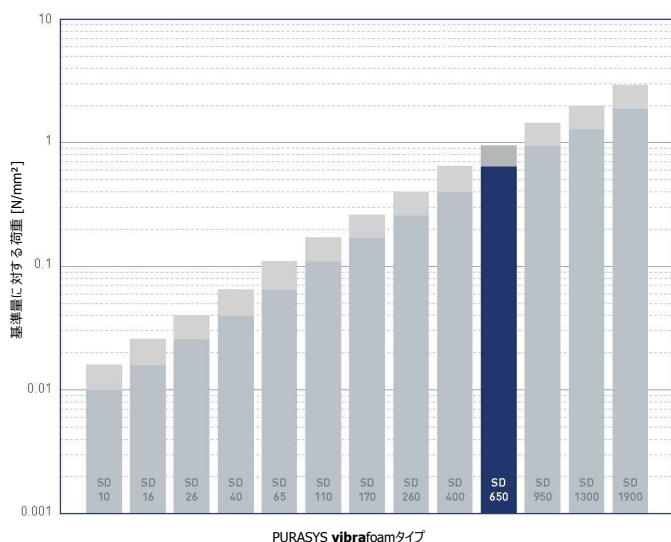
固有振動数



固い路盤上において固定質量とPURASYS
vibrafoamのSD400による弾性支承とによって構成
された一自由度系の固有振動数。
フォームファクタ $q=3$

PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.650

動荷重の最大値 [N/mm²]

0.950

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

5.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 濃青

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

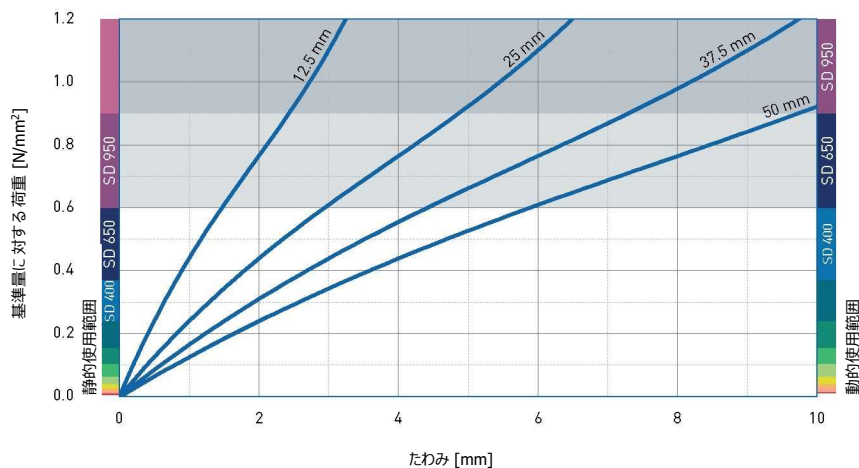
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.10	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	4.57 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	10.4 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.68 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.65 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.85 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.65 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.590 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	3.00 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	3.8 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	45%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.10 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

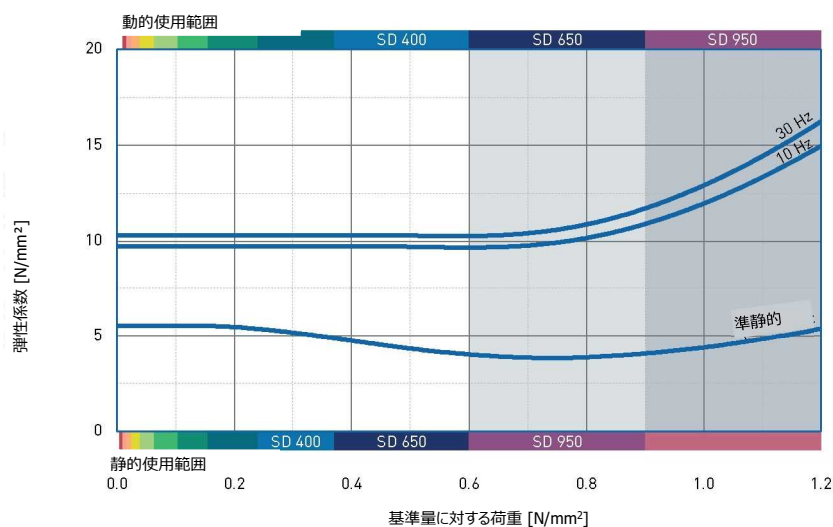
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において鋼板間で試験実施。

フォームファクタ $q=2$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

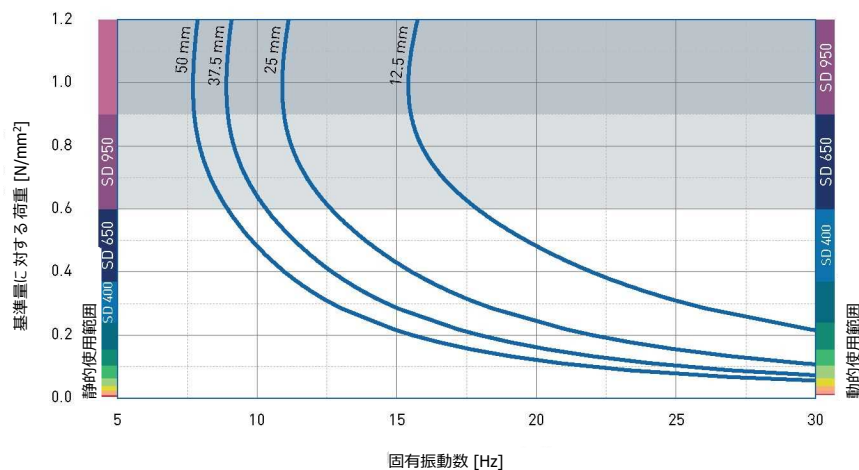
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=2$

固有振動数



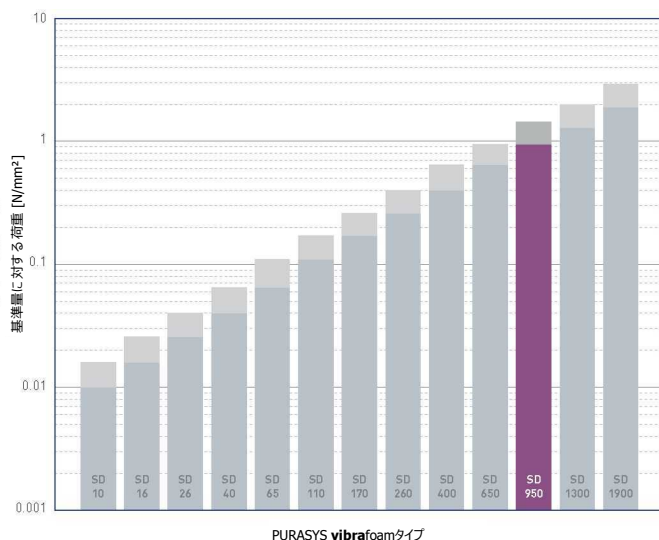
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD650による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=2$

PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

0.950

動荷重の最大値 [N/mm²]

1.450

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

6.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 暗紫色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

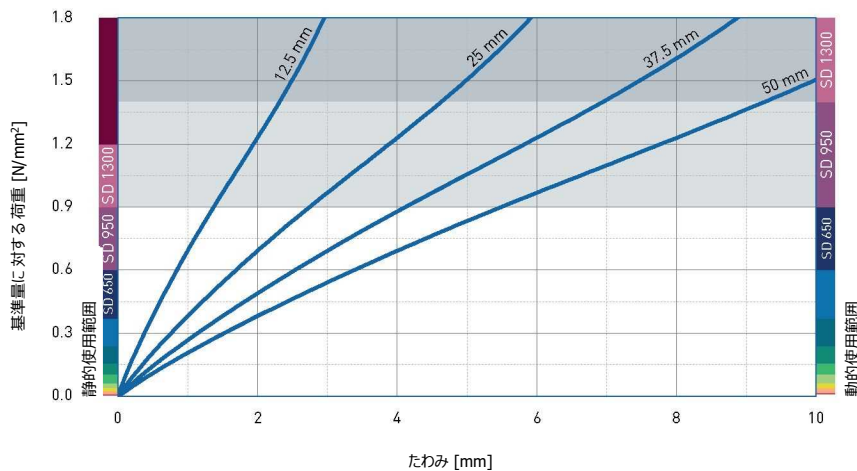
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.10	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	8.16 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	21.5 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	0.93 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.95 N/mm²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	2.84 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：0.95 N/mm²、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	0.930 N/mm²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	9%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	3.80 N/mm²超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	5.2 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	45%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.11 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

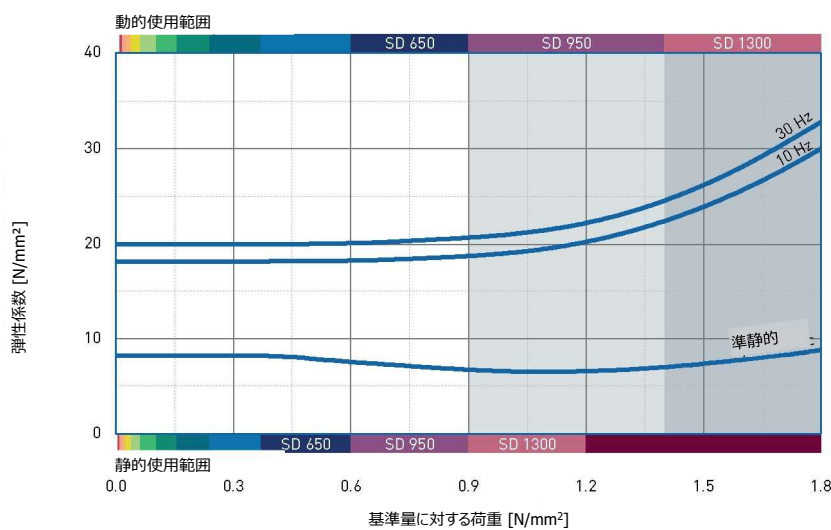
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において銅板間で試験実施。

フォームファクタ $q=2$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

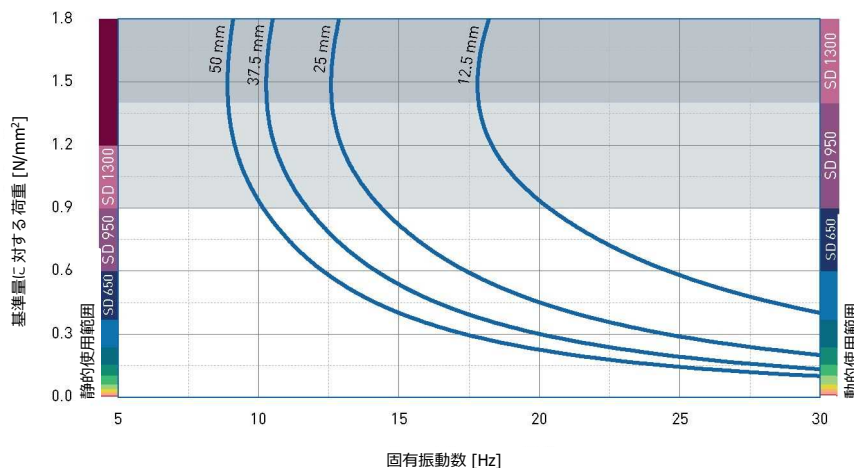
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=2$

固有振動数

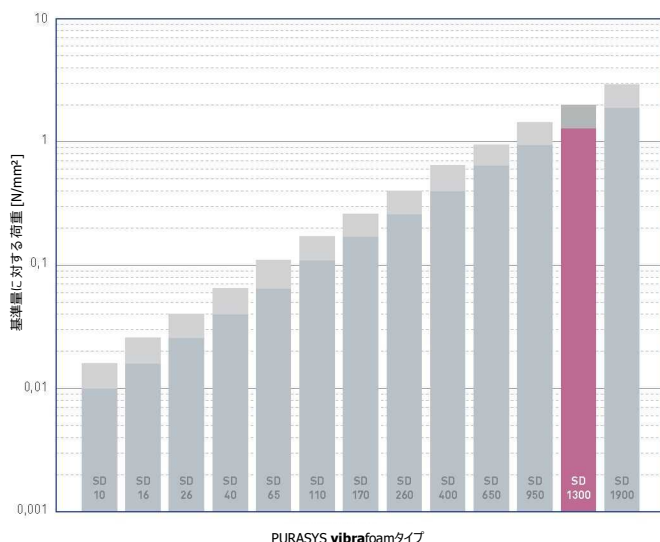


固い路盤上において固定質量とPURASYS
vibrafoamのSD950による弾性支承とによって構成
された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=2$

PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

1.300

動荷重の最大値 [N/mm²]

2.000

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

6.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 すみれ色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

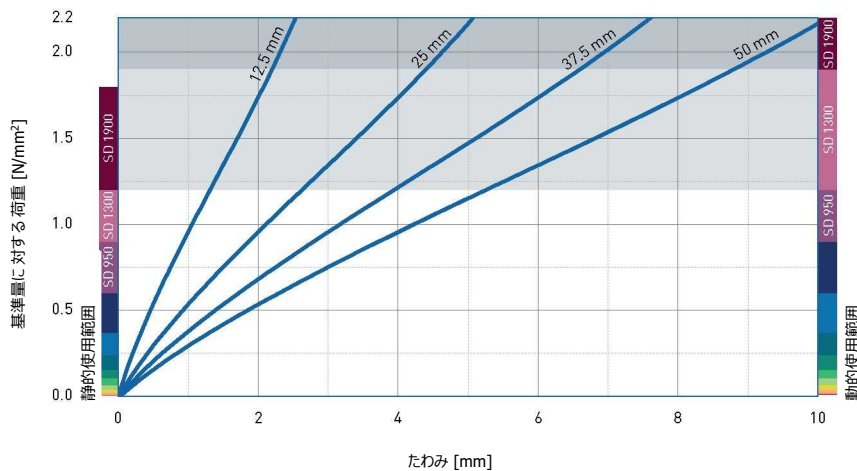
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.09	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	12.0 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	35.2 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.23 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.30 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	3.51 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.30 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	1.340 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	9%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	4.40 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	5.4 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	40%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.11 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE／EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

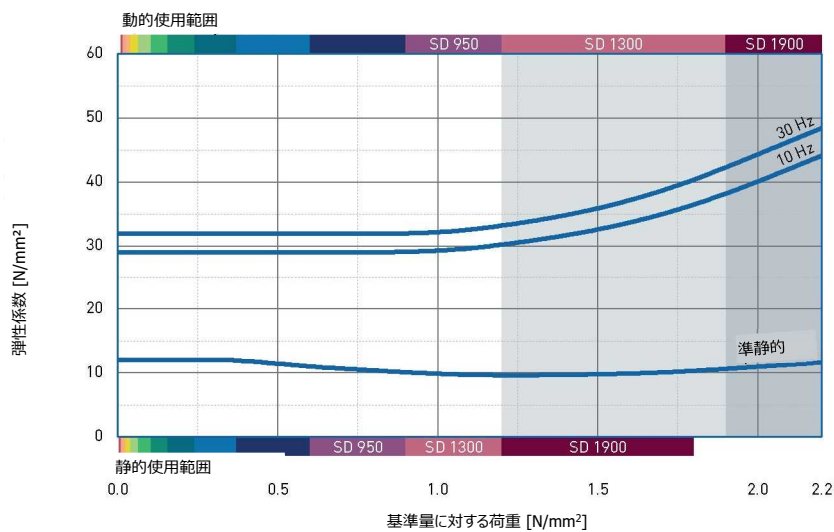
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において鋼板間で試験実施。

フォームファクタ $q=2$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

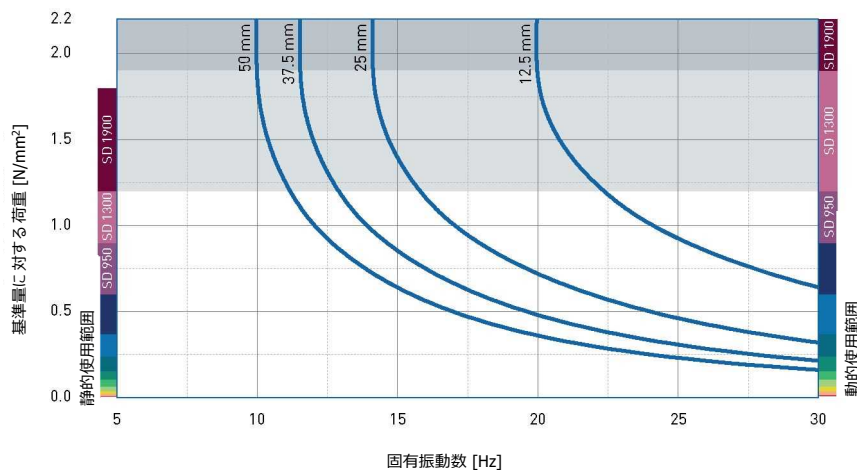
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=2$

固有振動数



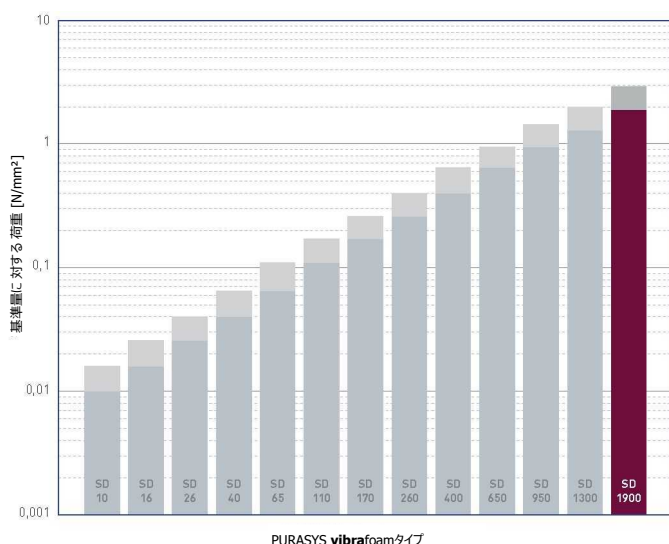
固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibrafoamのSD1300による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=2$

PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

1.900

動荷重の最大値 [N/mm²]

2.800

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

7.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ $q=3$ に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 ボルドー

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

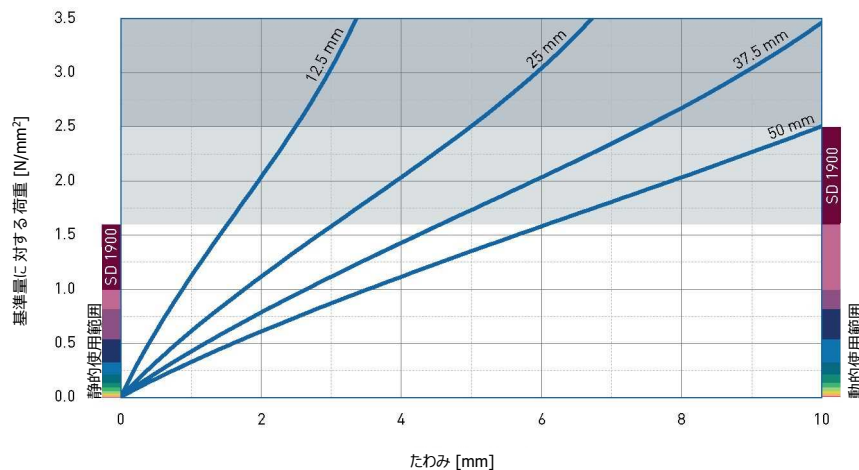
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.09	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	20.4 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	78.2 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.75 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.90 N/mm²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	6.00 N/mm²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.90 N/mm²、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	1.840 N/mm²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	8%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	5.00 N/mm²超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	6.0 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	40%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.11 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30～+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

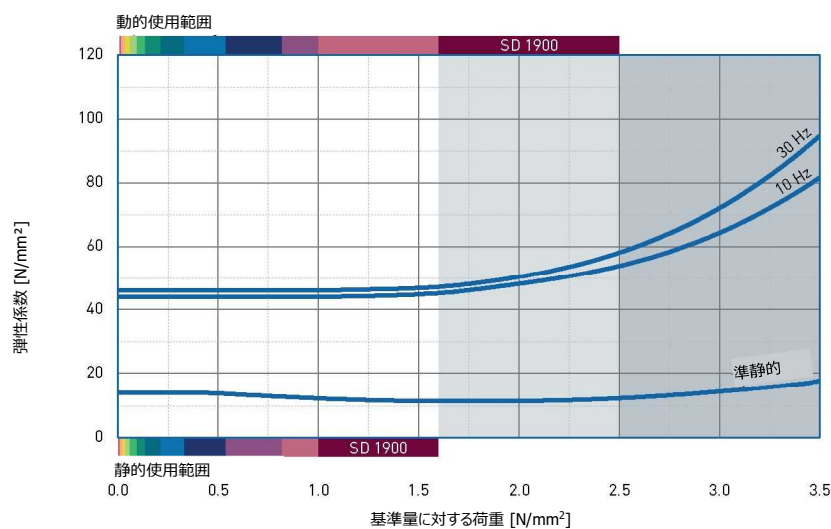
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において鋼板間で試験実施。

フォームファクタ $q = 1.25$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで ± 0.22 mm、
30 Hzで ± 0.08 mmの正弦波加振

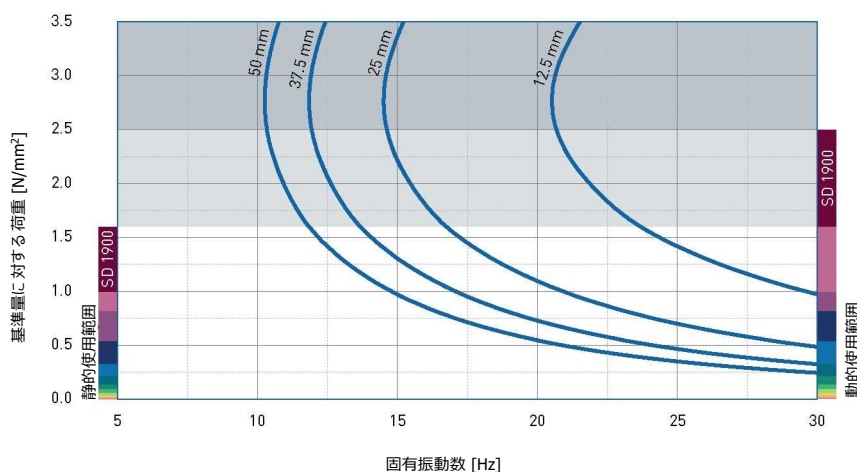
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q = 1.25$

固有振動数



固い路盤上において固定質量とPURASYS
vibrafoamのSD1900による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q = 1.25$